管内の北海道遺産

「北海道の集治監（樺戸、空知、釧路、網走、十勝）」
政治犯収容や重大犯罪人隔離のために、集治監（国立刑務所）が全道で5箇所設置され、管内には、1881年に樺戸集治監（月形町）、1882年に空知集治監（三笠市）が設置された。北方防衛と北海道開拓用の道路・鉄道建設、炭鉱開発等で、北海道の初期インフラ整備と地方文化形成を担った近代化遺産である。

「雨竜沼湿原」
増毛山地の標高850mにあり、北海道の山地湿原の中ではもっとも大きな高層湿原。大小様々な地塘（ちとう）が700以上あり、独特の景観を見せる。湿原植物も豊富で、昭和39年に道指定天然記念物、平成2年に暑寒別・天売・焼尻国定公園特別保護地区に指定された。「雨竜沼湿原を愛する会」による活動は、湿原を未来に伝える大切さと難しさを教えてくれる。

「空知の炭鉱関連施設と生活文化」
空知地域は、最盛期の1960年代に約110炭鉱、約1,750万トンの規模を誇る国内最大の産炭地として、北海道開拓や日本の近代化を支えてきた。エネルギー政策の転換により1990年代には全ての炭鉱が閉山したが、立坑櫓や炭鉱住宅、独特の食文化や北海盆踊りなど、今でもヤマ(炭鉱)に関する多くの記憶を残している。

「ジンギスカン」
発祥については諸説があるが、北海道でもっとも広く、かつ特徴的に発達した。大陸にも原型はみられるが、味付けなど羊肉を美味しく食べる工夫が凝らされ、新しい料理として北海道で確立したといえる。観光の魅力の一つであるとともに、花見などでも定番となっており、鍋を囲んで人と人をつなげる役割も果たしている。

「北海幹線用水路」
赤平市から南幌町(7市町)まで延長約80kmにおよび、農業専用では日本でもっとも長い。空知平野の農地に水を供給するために造られ、北海道の穀倉を支える役割を果たしている。大正13年から4年で完成し、空知川から最大毎秒44tを取水。北海頭首工を起点に、美唄市には調整池が、砂川、美唄、岩見沢市市街地では親水公園が整備されている。

「石狩川」
大雪山系を源とし、上川、空知、石狩の大平野を形成して日本海に注ぐ大河川。北海道開拓の歴史の中で、度重なる洪水と闘いながら、交通・物資輸送の道として大きな役割を担い、また鮭漁など北海道の歴史と文化が刻み込まれている母なる川。石狩川の地引き網漁は江戸時代に始まり、昭和期には遠方からも見物客が訪れたほどである。